

教育学研究科・教育実践高度化専攻 アセスメントプラン

1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、以下の教育学研究科・教育実践高度化専攻のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。

(知識・理解)

DP1. 学校改善・授業改善等に関して高度な専門的知識を習得している。

(技能)

DP2. 学校改善・授業改善等にかかわる高い技能を身につけている。

(思考・判断・表現)

DP3. 学校教育にかかわる現代的諸課題について、幅広く専門的な知見をもとに、その対応方策を適切に考え、高度な実践力をもって学校改善・授業改善等に取り組むことができる。

(関心・意欲・態度)

DP4. 学校に対する社会のニーズと自己の学習課題・研究課題を明確に意識し、実践を省察しつつ先導的に学習し研究する高度な教育実践力をもった専門的職業人として、自己の使命と責任とを自覚し、自主的に社会に貢献しようとする。

3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	修了予定者の進路状況調査	毎年1回	1年生 2年生	修了者の進路（教員就職率，県内就職率）	WEBアンケート	教育実践高度化専攻運営会議	入試改善，授業方法やカリキュラム改善，自己点検・評価に活用
2	修了生の訪問追跡調査	毎年1回	修了生 (抽出)	教職生活への適応状況，校長からの評価等	勤務校への訪問	教育実践高度化専攻運営会議	入試改善，授業方法やカリキュラム改善，自己点検・評価に活用
3	修了生アンケート調査	毎年1回	修了後 3年経過の修了生	現在の就業状況，大学院に対する満足度，大学院で身についた能力，授業や教育プログラムへの意見・要望	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援鍵に報告し，報告し，就職支援の充実，自己点検・評価，情報公開に活用
4	DP対応授業評価	毎年2回	全学年	受講した授業のDPへの適合度等	Webアンケート	教育実践高度化専攻運営会議	授業方法やカリキュラムの改善，自己点検・評価に活用
5	連携校（校長・教員）が行う実習評価	毎年1回	全学年	愛媛県の教員育成指標をベースとする評価観点	質問紙	教育実践高度化専攻運営会議	実習やカリキュラムの改善，自己点検・評価に活用
6	教育学部学生モニター会議	毎年1回	全学年 (学生代表者)	学習行動，授業・カリキュラム満足度	集会	教務委員会	授業方法やカリキュラム改善，学習支援や学習環境の充実，自己点検・評価に活用